

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度含む」)

静岡県立西部特別支援学校

様式目次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	23
3	学校施設の概要	24
4	在籍生徒調	26
5	入学志願者及び入学者数調	27
6	卒業生の動向調	28
7	生徒の状況	29
8	特別支援学校における生産物売払調	31
9	預金調	37
10	郵券等受払調	38
11	材料品受払調	39
12	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	46
13	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	46
14	委託料に関する調	48
15	負担金支出調	52
16	建築工事調	54
17	公有財産調	56
18	借地借家等調	58
19	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	59
20	行政財産貸付・使用許可調	60
21	主要備品調	67

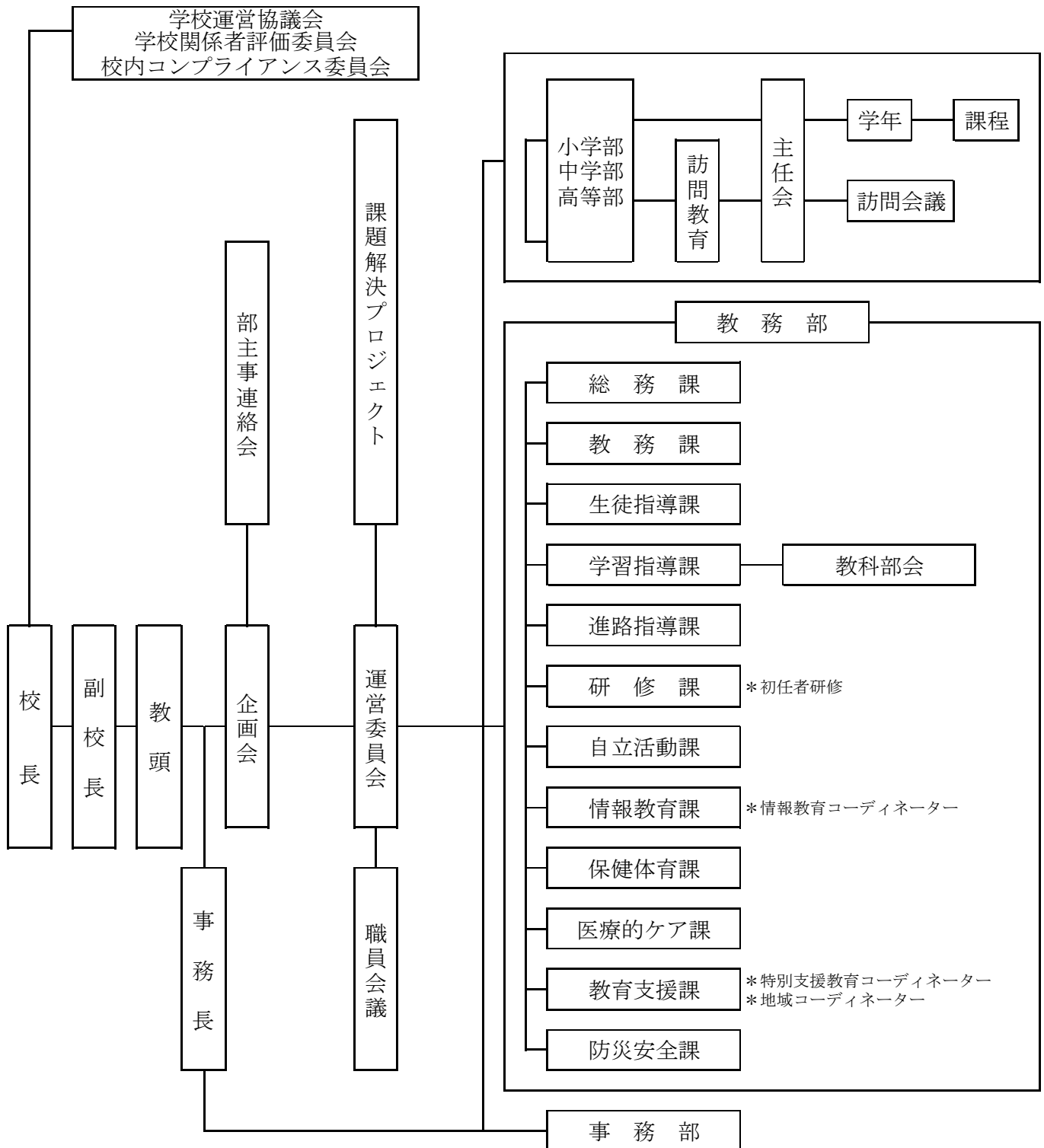
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

昭和 38 . 11 . 16	浜松療護園開園と同時に、園児生徒を対象として、豊岡小学校、北星中学校の特殊学級として、療護園の一部と食堂において授業を開始する。
39 . 4 . 1	静岡県立静岡養護学校西部分校設立（浜松療護園の一部を仮校舎として発足）
39 . 4 . 14	開校式
39 . 7 . 9	本館第一期工事竣工
40 . 7 . 6	スクールバス運行開始
42 . 12 . 23	南校舎（第2棟）4教室増築完成
45 . 2 . 10	5周年記念及び増築校舎落成式举行
46 . 3 . 25	第3棟校舎建築工事竣工
49 . 4 . 1	静岡県立西部養護学校として独立する。
52 . 8 . 5	第2棟とりこわし、新校舎工事着工
53 . 3 . 8	第2棟校舎建築工事竣工
54 . 4 . 1	養護学校の義務制施行、訪問教育実施
56 . 3 . 31	体育館竣工
57 . 2 . 3	第3棟東側 職員室、2教室増築
58 . 4 . 1	高等部設置、第1学年入学
59 . 2 . 29	高等部校舎建築工事竣工
61 . 3 . 8	高等部第1回卒業証書授与式举行
62 . 3 . 7	高等部校舎増築工事竣工
平成 元 . 4 . 1	文部省指定特殊教育実験学校（訪問教育）（平成元年～3年 3年間指定）
5 . 1 . 25	配膳室建築工事竣工、業者委託による完全給食実施
7 . 8 . 25	図書室建築工事竣工
10 . 7 . 1	文部省指定特殊教育実験学校（医療的ケア）（平成10年～11年 2年間指定）
11 . 4 . 1	高等部訪問教育実施
12 . 4 . 1	「特殊教育における福祉・医療との連携に関する実践研究」の継続指定
13 . 4 . 2	文部科学省指定「養護学校における医療的ケアに関するモデル事業」 文部科学省指定特殊教育調査研究協力校 「地域における交流活動の充実に関する調査研究」 （平成13年度～14年度 2年間指定）
14 . 1 . 18	県の委託NPOから看護師が2人派遣される。
15 . 4 . 16	医療的ケアに県の委託NPOから看護師2人が派遣される。
16 . 4 . 1	聖隷浜松病院の小学部・中学部訪問教育開設
16 . 4 . 22	医療的ケアに西部地区の県の委託NPOから看護師3人派遣される。
17 . 4 . 1	2学期制実施 医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として3人配置される。
18 . 4 . 1	おおぞら療育センターの高等部訪問教育開設 医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として4人配置される。
20 . 4 . 1	校名を静岡県立西部特別支援学校に変更
27 . 4 . 1	医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として5人配置される。
29 . 3 . 14	新校舎建築工事竣工
29 . 4 . 1	移転地にて業務開始となる。
29 . 4 . 1	医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として6人配置される。
令和 5 . 4 . 1	医療的ケア看護職員（会計年度任用職員）として7人配置される。
6 . 4 . 1	医療的ケア看護職員（会計年度任用職員）として10人配置される。
7 . 4 . 1	医療的ケア看護職員（会計年度任用職員）として13人配置される。
8 . 4 . 1	医療的ケア看護職員（会計年度任用職員）として14人配置される。

(2) 組織図



各種委員会	教育課程検討委員会 校内就学支援委員会 教科書選定委員会 人権教育及びいじめ対策委員会
	スクールバス委員会 研修推進委員会 情報セキュリティ委員会 学校保健委員会 学校給食委員会 アレルギー対応委員会
	医療のつな検討委員会 交流教育推進委員会 防災対策委員会 道徳教育推進委員会 入学者選考委員会
	業者選定委員会 職員安全衛生委員会 交通安全促進委員会 施設開放委員会 青藍祭委員会

2 目指す学校像

令和6年度

(1) 教育目標

「豊かで明るく健やかな子」

自ら学び自ら表現し、自立と社会参加を実現できる人

ア 豊かな自分の夢の実現に向けて主体的に学習する【知】

イ 明るく仲良く、相手の立場を尊重した生活をする【徳】

ウ 健やかな心と体をつくり、生活習慣を整える【体】

(2) 目標具現化の柱

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

エ 対話を大切にしながら、生き生きと働く職員集団づくり

令和7年度

(1) 教育目標

「豊かで明るく健やかな子」

ア 主体的に学び、豊かな心をもつ児童生徒【知】

イ 人・もの・ことに関わり、自分の思いを表現する児童生徒【徳】

ウ 健やかな心と体をつくり、たくましく生活する児童生徒【体】

(2) 目標具現化の柱

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり【安全・安心】

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり【授業・専門性】

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり【連携・協働】

エ 共に支え合い学び合う、生き生きと働く職員集団づくり【チーム】

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

評価基準 A＝十分目標を達成することができた
B＝おおむね目標を達成することができた
C＝あまり目標を達成することができなかった
D＝ほとんど目標を達成することができなかった

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・事後も含めた緊急時の対応力向上	・避難生活も含めた系統的な防災学習を実施している。	AB評価 99%	A	・災害時の具体的な場面に合わせた避難方法を学んだり、非常食体験を行ったりするなど、各学部で児童生徒の実態に応じた防災学習に取り組んだ。来年度も継続して取り組む。
	・災害時や緊急時に自ら考えて児童生徒の安全を守れる状態になっている。	AB評価 92%	A	・緊急時に適切な対応を取ることができるよう、類型会等を使って訓練を行うことができた。今後は、類型ごと事例児をあげて緊急時の対応訓練に取り組み、緊急時に備えていく。
	・保護者・職員の防災意識が高まっている。	実施 100%	A	・非常食体験等を通して災害時における医療的ケア物品の見直しができた。引き続き災害時における医療的ケア内容や物品を保護者や職員間で確認をし、災害時でも児童生徒の安全を守れるようにしていく。 ・171を使った録音訓練実施率は、保護者98.5%、職員は100%であった。保護者と非常時の連絡方法を確認することで、防災意識が高まった。

・すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実	・学校体制における人工呼吸器管理について理解し、安全に実施できている。	AB評価 100%	A	・人工呼吸器管理は中学部2名が完全実施になった。引き続き小学部2名、中学部1名の学校体制による人工呼吸器管理も慎重に進めていく。来年度も新規の児童も含め職員間で連携しながら安全に実施していく。
	・個々の児童生徒に適した食と環境の提供及び摂食指導をしている。	AB評価 96.8%	A	・食事環境や食事の提供等、安全に配慮することができた。今後も校内環境の衛生管理や安全性に配慮した取り組みを行う。 ・食事カードの作成、活用は定着してきた。さらに効果的に活用するために、記入内容の確認や呼びかけの時期を設定する。 ・摂食カンファレンスは複数での検討による情報共有や他機関との連携につながるケースがあった。 ・摂食研修では、初めて摂食指導をする教員への伝達に加え、全校として本校での食事指導に関する基本的な内容や支援の共有、確認もでき有効であった。
	・性教育全体計画を活用して性教育を行っている。	AB評価 82.6%	B	・性教育全体計画を活用したと回答した教員の割合は約6割と低かった。来年度は掲示板や類型会等を使い、児童生徒の実態に合わせた性教育の内容を周知するなど、積極的な理解啓発を図っていく。
・多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員	・児童生徒の人権意識が高まるような指導ができている。	AB評価 100%	A	・人権教育年間指導計画を作成した。来年度は、統一された形式の指導計画を作成することで、さらに人権教育の指導を意識した授業を行っていく。
	・教職員の人権意識が高まっている。	AB評価 92.8%	A	・人権について学期ごとに自己評価を行った。また各学年、類型別に話し合いを実施し、全体では講師を招いた研修を行った。小集団で互いの気付きや考えを伝え合い、共有することで、教職員の人権意識が高まった。来年度は、効果的な掲示板の活用や肢体不自由教育における視点を取り入れた人権研修を行うことで、更に人権意識を高めていく。

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・教育課程の組織的な検討と仕組みづくり	・目指す児童生徒像に迫る教育課程について考えている。	AB評価 96%	A	・現状の課題の整理と解決方法に関する情報収集等、教育課程検討に必要な土台となる原理原則を整備、明確化することができた。また、学年主任、類型主任を軸として教員の気付きから各学部単位で教育課程の見直しに関する検討を行った。課題は、原理原則や各学部で編成し直した教育課程を実行する中で、教員一人一人が本プロジェクトの取組一つ一つのつながりを実感することである。
・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・中心課題や各教科、双方の視点に基づいた授業づくりを行っている。	AB評価 96.1%	A	・自立活動指導計画による分析的な中心課題抽出と、Lマップ(Ⅱ)やSスケール(Ⅲ・訪)の活用、各教科の段階と指導内容を明記した評価規準設定(ⅡⅢ)により、自立活動と各教科双方の視点に基づいた授業について考えることができた。また、Ⅰ類型については、総合的な学習／探究の時間で働かせる各教科の見方・考え方の検討を行った。計画的に授業づくりデイを活用しながら、今年度以上に意識的に中心課題や各教科、双方の視点に基づいた授業実践を積み重ねて実践知へとつなげていく。 ・授業づくりの基となる個別の指導計画の内容を見直し、合わせた指導について、扱っている教科、段階を記入するようにした。今後は、各教科ごとの明確な目標立てや評価ができるよう検討していく。
	・授業づくりでは、個別最適な学びと協働的な学びが検討されている。	AB評価 96.1%	A	・各類型での授業研究会や1グループ1授業公開での授業を主として、個別最適な学びと協働的な学びについて検討し、単元カードや指導案の内に位置付けることができた。また、それらの実践を基にした個別最適な学びと協働的な学びの本校としての考え方を仮説的にまとめることができた。協働的な学びについては、その本質を理解した上で授業実践へとつなげていく。 ・学習指導要領の教科・段階の視点から年間指導計画の見直しを行った。今後は、年計作成→授業→見直し→作成…を繰り返していくことで、教科ごとの指導内容や学年間、学部間の系統性等を整えていく。
・教員の専門性向上	・児童生徒や授業に関する話し合いの時間を設定し、日常的なOJLを実施している。	AB評価 99%	A	・授業づくりデイを活用した授業検討によって日常的なOJLを実施することができた。各検討で重要な役割(タイムマネジメント面、合意形成面)となるファシリテーターの育成が課題である。
	・肢体不自由教育の専門性が向上している。	AB評価 97.1%	A	・各種研修等を通して知識を得る機会を設定されていた。実践力としては、外部講師のケース相談や実際の場での授業支援が有効だった。今後は、知識習得と実践の両面の取り組みを更に充実させていく。

・キャリア教育の充実	・複数の視点で中心課題を設定し、指導場面を明確にして自立活動の指導を行っている。	AB評価 97%	A	・新書式での自立活動指導計画の作成を通して、中心課題について意識したり、話し合いの効果を実感したりすることができた。課題として挙げた話し合いの場の不足、実際の指導についての検証、作成時の不安や疑問について、来年度は授業づくり・ケース会ディを活用し、話し合いや検証を行っていく。
	・キャリア教育を意識し、社会生活を送る上で必要とされる力を身に付けるような指導をしている。	AB評価 96.2%	A	・キャリアリーフレットを類型ごとに整理したことで、担当する児童生徒の身に付けたい力が明らかになった。今後は、キャリア教育で身に付けたことを次につなげるために、キャリアパスポートの充実に取り組む。
・ICTの活用の充実	・個別最適な学びと協働的な学びのために、ICTを効果的に活用している。	AB評価 96%	A	・視線入力装置を各学部で常設することにより、準備の手間が省け継続的な指導をすることができた。 ・ICT活用の実践例を整理して、データベースを作成することができた。来年度は、スイッチ関係と端末をつなげるなど、ニーズに応じた整備や実践例の紹介に取り組み、更に活用度を高めていく。 ・協働的な学びのある授業を目指し、マッチングサイトを活用して遠隔合同授業のマッチングを試みたが、相手が決まらず、実施ができなかった。来年度は協働的な学びについて、その本質を理解した上で授業実践へとつなげていきたい。その方法の選択肢として、遠隔合同授業だけでなく、校内での合同授業、地域人材の活用等を検討していきたい。

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信	・保護者が学校からの情報発信に概ね満足している。	AB評価 94%	A	・保護者アンケートにて、学校からの情報発信に満足している保護者が9割以上であった。 ・学校公開には放課後等デイサービスや就学前施設の職員など33名の参加者があり、本校の教育を理解していただく機会となった。来年度は、行事と重ならない2学期実施とし、校内の準備体制を整え、より参加者のニーズに合った公開を目指す。 ・青藍祭に関する情報は、ホームページやインスタグラムを活用し、保護者や地域に向けてタイムリーに発信することができた。保護者の参加に加え、卒業生や放課後等デイサービスの職員の参加もあった。来年度はより多くの方に情報発信できるよう、地区の回覧板等も活用していく。

	・ホームページ、SNS、作品展等を活用して、地域への情報発信に取り組んでいる。	AB評価 98.2%	A	・ホームページの新システム移行に伴い、閲覧者が知りたい情報にアクセスしやすいよう、ホーム画面の構成を変更した。今後は、学部共通の行事はまとめてホームページに掲載するなど、内容の分かりやすさに努め、作成者の負担減にも取り組む。 ・進路に関する情報は、進路だよりの発行、COC00による進路情報の提供を行った。今後も日々更新される福祉や進路に関する情報をよりタイムリーに発信していく。 ・地域向けの学校だよりは、計画通り年4回発行することができた。また、ホームページやCOC00にもアップし、情報を発信することができた。来年度も継続する。 ・教科部会「図工・美術」と連携して、各学部1回以上、校外の作品展に出展した。また新たな展示場所として、近隣施設・店舗6カ所をお願いし、作品展示を2回実施した。来年度も各学部の協力を得ながら、地域への情報発信に取り組む。
	・支援会議やケース会議をタイムリーに開き、組織的効果的な支援を行っている。	AB評価 96.7%	A	・授業づくり・ケース会デイを生かして、必要に応じたメンバー構成で効果的にケース会を開くことができた。会議後の進捗状況や対応等について学年、類型で情報共有を確実にしながら次につなげていく。 ・進路相談会、移行支援会議など進路に関わる関係機関との会議を予定通りに進めることができた。高等部に進学しない場合の進路指導について、今年度行ったことをまとめ、次年度以降も利用できるようにする。
	・互いの理解が深まる交流・学習を行っている。	AB評価 96.9%	A	・各学部、本校児童生徒と交流校、それぞれを知る有意義な交流活動ができた。更に互いの良さが発揮できる交流活動ができるよう、事前打ち合わせを丁寧に行い、実態に合った交流内容を工夫していく。
・地域に根付いた学校づくり	・地域資源を活用した学習を行っている。	AB評価 99%	A	・地域ボランティア登録者は17人のうち12人の方に来ていただき、読み聞かせ、楽器演奏、体育的活動で交流することができた。今後は、地域資源を活用した授業を計画しやすいよう、活用例等の情報提供を行っていく。
・創立60周年記念事業を通して、感謝と夢を語る指導の実践	・児童生徒が60周年の歩みへの感謝の気持ちと夢を語ることができる取組をしている。	AB評価 95.2%	A	・キャラクターやスタンプラリー等のイベントを活用し、授業の中や休み時間に児童生徒が感謝の気持ちと夢を語ることができる取り組みを行うことができた。

エ 対話を大切にしながら、生き生きと働く職員集団づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・共に支え合い、働きがいのある職場づくり	・職場が発言や相談をしやすい雰囲気である。	AB評価 89.3%	B	・小グループ内での相談等はしやすいと感じている職員がいる一方、学部や学校全体としては相談しにくい職場であると感じている職員もいる。日常的なOJL（職員間の対等な学び合い）の実施や複数メンター制度による相談体制を整える。 ・職員交流（2回実施）は、参加者にとっては交流を深める場となったが、参加者数が少なく学校全体の交流を深める場とするには至らなかった。今後は、教職員間のよりよいコミュニケーションの在り方を職員安全衛生委員会からも情報発信する。
・学校運営課題の解決に向けた組織的な取組	・拡大運営委員会で得た情報を学校運営に生かしている。	AB評価 95.2%	A	・組織マネジメント研修として、OJLや学校経営参画の基本的な姿勢や視点についての講義、演習等を行った。また、部・課・学年運営のマネジメントに関する課題の共有、OJLの視点による分析、アプローチ方法の検討を行った。次年度もOJLの研修を継続し、得た情報を基に実践した内容の評価、改善の共有も行うことで、学校運営に生かしていく。
・指導の充実に向けた業務の整理・精選	・授業準備や授業に関する話し合いの時間が確保できている。	AB評価 93.3%	A	・NESパソコンのメモリを増設したことで、パソコンの動作が改善されて時短につながった。 ・スプレッドシートによる情報共有は、連絡事項をリアルタイムに共有でき、打ち合わせの時短や業務効率化につながった。
	・時間外等在校時間が月45時間以内になるようにタイムマネジメントをしている。	AB評価 96.3%	A	・Googleチャットはスピーディーな情報共有をすることができ、分掌会での連絡事項が少なくなり時短につながった。今後は、校内でのルールを整えて、安全かつ効果的に利用し続けていくことが課題である。 ・分掌によっては削減できる業務が限られており、人員配置による業務負担が大きい面があった。今後も人員配置のバランスを学校全体で考えるとともに、課内での役割分担や協力体制を見直していく。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標（重点目標はゴシック体で記載）

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・事後も含めた緊急時の対応力向上	・災害時、緊急時に円滑に動けるための実効性のある訓練実施と危機管理マニュアルの見直し ・災害時における医療的ケアの内容や物品の把握	・災害時や緊急時に自ら考えて行動でき、児童生徒の安全を守れる状態になっている。
・すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実	・教員と医ケア看護職員による医療的ケア連携体制の構築 ・医ケア検討委員会の月1回実施 ・安全で衛生的な校内環境の整備及び食環境の提供 ・食事カードの活用と摂食カンファレンス及び摂食研修の充実 ・性教育全体計画の活用と見直し	・職員が連携して安全に医療的ケアを実施できている。 ・校内が安全で衛生的になるように常に整えている。 ・個々の児童生徒に適した食と環境の提供及び摂食指導をしている。 ・性教育全体計画を活用して性教育の授業や性教育の視点をもった指導を行っている。
・多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員	・人権教育年間計画の活用と見直し、及び人権教育の視点を意識した授業の実施 ・情報モラル教育の充実 ・教員の定期的な人権意識自己チェックと小集団による教職員の人権意識が高まる取組の実施	・児童生徒の人権意識が高まるような指導ができている。 ・児童生徒・教職員にとって、学校が安心な場所になるように、人権を意識した言動を心掛けている。

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・教育課程の組織的な検討と仕組みづくり	・課題解決プロジェクトの実施 ・教育課程や各教科等を合わせた指導などの各種押さえや、カリマネシステム図・各種教育資料の検討と活用 ・ミドルリーダーを軸として全教員が教育課程を考えるあらゆる機会の活用	・指導内容を明確にして年間指導計画・個別の指導計画を作成している。 ・目指す児童生徒像に迫る教育課程について考えている。
・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・課題解決プロジェクトの実施 ・自立活動と各教科、双方の視点による授業実践 ・S-PDCAサイクルに基づく授業改善と教育課程別研修による授業研究 ・各教科の評価規準表の作成 ・実態に応じた柔軟な学習グループの編成	・自立活動と各教科、双方の視点による実態把握を授業に反映させている。 ・授業づくりでは、個別最適な学びと協働的な学びが検討されている。
・教員の専門性向上	・1グループ1授業公開を通した学び合いの充実 ・授業づくり・ケース会デイを活用した話し合いの充実 ・からだ（姿勢・呼吸）や摂食に関する研修会の充実	・児童生徒への支援や授業づくりについて話し合い、実践している。 ・肢体不自由教育における専門性の向上を実感している。
・キャリア教育の充実	・キャリア・パスポートの内容検討と見直し ・キャリア教育リーフレットを活用して将来の姿を見据え、個の力を最大限に生かすキャリア教育の実践	・キャリア教育を実践し、社会生活を送る上で必要とされる力を身に付けるような指導をしている。
・ICTの活用の充実	・一人1台端末、視線入力装置、各種スイッチ、電子黒板、遠隔合同授業等の活用促進	・指導目標達成に向けて、ICTを効果的に活用するように、日々、検討し充実させている。

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信	・学校公開や青藍祭の実施 ・参観・懇談会の充実 ・ホームページ、COCOO, SNS等を活用した迅速な情報発信 ・校内外の作品展の実施 ・支援会議、ケース会議、進路相談等のタイムリーな実施による校内外の支援体制の充実 ・学校間・交流圏交流での互いの良さが発揮できる交流方法・内容の工夫と事前打合せの充実	・児童生徒の学びの様子が保護者や地域に伝わるように情報発信している。 ・支援会議やケース会議、進路相談をタイムリーに開き、組織的効果的な支援を行っている。 ・互いの良さが発揮できる交流及び共同学習を行っている。
・地域に根付いた学校づくり	・学校運営協議会との連携による支援体制の充実 ・地域ボランティアの活用 ・地域資源を活用した活動の充実	・地域資源を活用した学習を行っている。
・生涯を通じて豊かに生きるための教育活動の充実	・障害者スポーツの推進 ・文化活動の推進 ・読書活動の推進 ・合理的配慮等に関する理解啓発	・卒業後の豊かな生活を意識して、いろいろな経験ができるような学習を行っている。

エ 共に支え合い学び合う、いきいきと働く職員集団づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・共に支え合い、働きがいのある職場づくり	・組織マネジメント研修によるミドルリーダーの育成 ・日常的なOJLの実施 ・複数メンター制度による若手育成	・職員同士がお互いを大切にしている職場である。 ・キャリアステージに基づく自身の役割を校内で果たしている。
・指導の充実に向けた働き方改革の推進	・グーグルサービスの安全で効果的活用 ・適正な集団での授業と教員配置 ・1業務複数担当制の実施 ・チーム内で業務進捗状況の共有 ・完全定時退勤日の設定	・時間外在校等時間が月45時間以内になるようにタイムマネジメントをしている。

(3) 令和7年度取組目標への評価及び成果と課題(重点目標はゴシック体で記載)

評価基準 A=十分目標を達成することができた
 B=おおむね目標を達成することができた
 C=あまり目標を達成することができなかった
 D=ほとんど目標を達成することができなかった

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・事後も含めた緊急時の対応力向上	・災害時や緊急時に自ら考えて行動でき、児童生徒の安全を守れる状態になっている。	AB評価 100%	A	・様々な状況を想定した避難訓練を実施し、災害時の対応の見直しを行った。危機管理マニュアルや本校の防災備品を使用した防災研修を通して、災害時、緊急時の対応力の向上を図ることができた。
	・職員が連携して安全に医療的ケアを実施できている。	AB評価 98.8%		・教員と看護師が協力して、安全なケアができていたので継続する。 ・学校体制による人工呼吸器管理を行う児童生徒が4人となった。医ケア検討委員会は毎月1回実施できた。人工呼吸器管理を含む様々なケアがある中で教員と看護師が連携できるよう、情報の伝達や共有を日々行っていく。

・すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実	・校内が安全で衛生的になるように常に整えている。	AB評価 99.0%	B	・手洗い石鹸や消毒液、ペーパータオルの在庫確認、補充といった衛生面での環境を整えることができている。給食の提供についても異物混入は昨年度よりも減っている。
	・個々の児童生徒に適した食と環境の提供及び摂食指導をしている。	AB評価 100%		・食事カード、摂食カンファレンス、研修を活用し、一貫した摂食指導を実施できた。また、食事カードの設置やカンファレンスは、安全な食事の提供に寄与した。今後にも生かせるように、研修や資料の整備、カンファレンスの手続きの周知に取り組む。
	・性教育全体計画を活用して性教育の授業や性教育の視点をもった指導を行っている。	AB評価 90.7%		・性教育については、学習内容表を基に学期末に各学習集団で評価をした。後期末は行った内容に加えて具体的な指導場面を挙げたが、CD評価の割合が他の項目に比べると高くなった。課題として、どの学習場面で指導すればいいかが意識しにくかったことが挙げられた。来年度は、性教育の学習内容表を参考に、各教科の年間指導計画に位置付け、指導する学習場面を明確にして取り組む。
・多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員	・児童生徒の人権意識が高まるような指導ができている。	AB評価 97.9%	A	・類型や学年に合わせて人権教育年間指導計画を作成した。学習活動において人権教育の視点を意識した指導を行う機会が増えた。今後は、児童生徒が人権意識を実感できる内容を含んだ指導計画を作成していく。
	・児童生徒・教職員にとって、学校が安心な場所になるように、人権を意識した言動を心掛けている。	AB評価 96.8%		・人権チェックシートを活用し、学期ごとに自己評価と、各学年と類型による話し合いを行った。外部講師を招いての全体研修では、学校や家庭における人権について知ったり、考えたりすることができた。来年度は話し合いの中で、児童生徒が人権を意識するための題材や活動についても取り上げていく。

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・教育課程の組織的な検討と仕組みづくり	・指導内容を明確にして年間指導計画・個別の指導計画を作成している。	AB評価 97.8%	A	・各教科と自立活動それぞれの指導目標を考える際のポイントについての理解が進み、指導内容を明確にした個別の指導計画の作成ができた。 ・課題解決プロジェクトや教科部会と連携し、Ⅱ、Ⅲ類型で扱う教育内容の決定や指導内容の選定にも全校で取り組み、学部ごとに指導内容表を作成した。
	・目指す児童生徒像に迫る教育課程について考えている。	AB評価 99.0%		・学習指導要領の内容を入れた年間指導計画の作成→授業実践→振り返りを行い、来年度扱う各教科の時数の設定や、教育形態の検討と決定に繋げた。 ・各学部ごと、教育課程の見直しを行い、次年度の教育課程についての検討と改定を行った。

・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・ 自立活動と各教科、双方の視点による実態把握を授業に反映させている。	AB評価 96.7%	A	・ 課題解決プロジェクトの取組を踏まえて教科部会を実施し、授業実践につながる校内体制の充実を図った。教科部会では、授業づくりに活用できる「教科部会シート」を作成、共有することで、教科指導に対する共通理解を深めた。さらに、Ⅱ・Ⅲ類型の指導内容表や、知的代替教育課程における各教科の評価規準表を作成し、指導内容や評価の視点を明確にすることができた。
	・ 授業づくりでは、個別最適な学びと協働的な学びが検討されている。	AB評価 97.8%		・ 各研修グループの授業づくりツールを活用して個別最適な学びと協働的な学びについて検討することができた。この成果を来年度に引き継ぎ、より一層の自立活動の視点による学び方の充実を目指していく。
・ 教員の専門性向上	・ 児童生徒への支援や授業づくりについて話し合い、実践している。	AB評価 97.8%	B	・ 研修窓口となる教科、領域の日々の授業実践や1グループ1授業公開の授業実践では、授業づくりデイを活用して日常的に授業づくりについて話し合い、授業実践につなげることができた。この成果を窓口以外の教科等の授業実践へと般化させるために、時間の創出と多様な働き方の教師集団における授業検討の工夫の仕方を模索していきたい。
	・ 肢体不自由教育における専門性の向上を実感している。	AB評価 94.6%		・ 各種研修やカンファレンス等、ニーズや課題に応じて専門性を高める機会を十分に提供することができた。教員間での共有が行われた集団では、知識や技術の習得につながっている。今後の課題は、話し合いの機会や事後研修、作成資料の整理と活用である。
・ キャリア教育の充実	・ キャリア教育を実践し、社会生活を送る上で必要とされる力を身に付けるような指導をしている。	AB評価 100%	A	・ 進路ファイルに綴じる内容の精選、キャリア教育にかかわる授業の各学部の実況把握を行ったことにより、キャリア教育にそれぞれがどのように関わっているかを再確認することができた。来年度からキャリア・パスポート実施するにあたり、混乱なくどの学部も取り組めるよう形式や実施方法を提案していく。
・ ICTの活用の充実	・ 指導目標達成に向けて、ICTを効果的に活用するように、日々、検討し充実させている。	AB評価 94.4%	B	・ 実践事例集を活用し、データベースの周知を行ってきた。今後は、児童生徒の実態や目標に合った機器選択や補助具、姿勢等の実践例を追加する。また、ICT機器の効果的な活用を目指し、12年間を見通したICTの実践を検討し、より活用頻度が増えるようにする。 ・ 遠隔合同授業については、他校の児童生徒の授業に参加し、遠隔で共に学ぶ機会を設けることができた。

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
------	------	------	----	-------

・保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信	・児童生徒の学びの様子が保護者や地域に伝わるように情報発信している。	AB評価 97.8%	A	<学校公開> ・2学期に実施し、参加者34名のアンケートではAB評価合わせて100%となった。特に教材教具の展示についての満足度が高かった。 <青藍祭> ・ホームページやInstagramを活用し、保護者や地域に向けてタイムリーに発信することができた。今後は、地域とのつながりを深める情報発信を目指し、地区の回覧板への掲載やポスターの掲示、関わりのある施設への招待状の送付など、様々な方法を取り入れていく。 <参観・懇談会> ・コロナ禍で縮小していたが、回数を増やし、他学部も参観できる機会を設けた。来年度は、時間配分や内容の工夫を目指す。
	・支援会議やケース会議、進路相談をタイムリーに開き、組織的効果的な支援を行っている。	AB評価 100%		・関係機関からの要請で支援会議を行うケースでは、各機関との日程調整で開催がずれ込むことがあったが、必要なケースは関係機関と連携し、スピーディーに実施につなげた。今後も、学年、類型、関係機関とこまめな情報共有を行いながら、対応していく。 ・進路相談会、移行支援会議など進路に関わる関係機関との会議を予定通りに進めることができた。就労選択支援が始まり、それに伴うケース会議が増えたが、実態や希望に合った進路選択ができるよう、各機関との連携をさらに強めていく。
	・互いの良さが発揮できる交流及び共同学習を行っている。	AB評価 96.2%	A	・事後アンケートより、互いに関わりながら有意義な交流ができた学年、学部が多かった。一部、本校教員間の共通理解不足、検討時間が十分取れなかった例もあった。交流校の担当との打ち合わせを充実させていくとともに、実態に即したねらいを本校教員間で共通理解していく。また、交流の目標についても、相互の触れ合いという交流の側面だけでなく、教科等のねらいの達成を目指した共同学習の側面も押さえ、交流校と目標を共有して取組を工夫できるよう、推進していく。
・地域に根付いた学校づくり	・地域資源を活用した学習を行っている。	AB評価 99%		・地域ボランティアの登録は20人、活用は19回となり、学級活動、音楽、書写、英語の授業に来ていただいた。今後は、各教科の年間指導計画に位置付けられるような情報提供を行うとともに、学部と連携しながら活用例の紹介を充実させる。地域資源の活用については、近隣店舗の校外学習等の取り組みを集約、情報提供し、地域とのつながりが更に深まるよう推進していく。

・生涯を通じて豊かに生きるための教育活動の充実	・卒業後の豊かな生活を意識して、いろいろな経験ができるような学習を行っている。	AB評価 97.7%	A	・簡単にできる運動を授業担当者に紹介したり、授業で様々な運動種目を取り入れたりした。様々なスポーツ種目に触れることで、児童生徒が楽しく活動することができた。また、外部人材を活用した授業も行うことができた。 ・図書館職員による読み聞かせ会を実施するとともに、読書週間に合わせて図書便りを発行し、読書活動の啓発を行った。また、夏休みや冬休みには家族と共に本に親しむ「家族読書」を実施し、家庭と連携した読書活動の推進を図ることができた。
-------------------------	---	---------------	---	--

エ 対話を大切にしながら、生き生きと働く職員集団づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・共に支え合い、働きがいのある職場づくり	・職員同士がお互いを大切に行っている職場である。	AB評価 98.9%	A	・0JLの取り組みを「西特0JL」として位置付け、拡大運営委員会を通じて各学部・学年、分掌での取り組みを行った。「共に支え合い、学び合う職員集団」を目指し、各グループで共有ビジョンを立て、チーム内での話し合いや合意形成までの過程を大切にしたチームづくりを行った。今後も、共感に基づく対等な学び合いを大切にした質の高い教職員チームづくりに取り組んでいく。
	・キャリアステージに基づく自身の役割を校内で果たしている。	AB評価 100%		・複数メンター制による取組では、経験年数の異なる教員で構成されたグループごと、語り合いたいテーマを基に、年3回語り合った。特に実感できたこととして、「他の教員の考え方・価値観を知ることができた」や「悩みや不安を共有できた」を挙げる参加者の割合が高かった。今後は、実施時期やグループ編成の工夫等で、更に主体的な支え合い、学び合いにつなげていく。
・指導の充実に向けた業務の整理・精選	・時間外在校等時間が月45時間以内になるようにタイムマネジメントをしている。	AB評価 97.8%	A	・活用の仕方や使用上の注意点を学校掲示板等で周知することにより、グーグルチャットやグーグルフォーム等の安全な使用が定着してきている。今後は、生成AIの適切な活用等、引き続き効率的に業務遂行できるよう工夫して取り組んでいく。

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
6 年度	・多様性を認め合う高い人権意識をもった児童生徒と教員	・人権教育年間指導計画を作成することで、計画的な授業実践へとつながっている。今後は、指導計画の様式を統一し、さらに人権教育の指導に視点をあてた授業が行えるよう取り組んでいく。
	・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・自立活動指導計画による分析的な中心課題抽出とツールの活用、各教科の段階・指導内容を示した評価基準設定により、自立活動と各教科双方の視点に基づいた授業づくりを行うことができた。引き続き、中心課題や各教科、双方の視点に基づく授業実践を積み重ねていく。 ・外部講師を招聘しての公開授業研究会を12月に行った。類型ごとによる話し合いや外部講師からの助言をいただき、個々の実践に生かすことができた。
	・地域の特色や自然環境に目を向けた学習の充実	・地域ボランティア9人に協力を依頼し、絵本の読み聞かせや楽器演奏、体育的活動を行うことができた。地域資源を活用した授業を計画しやすいよう、活用例等の情報提供を行っていく。 ・各学部で学校間交流を実施した。互いの良さが発揮できるよう、打ち合わせを綿密に行い活動できた。
	・学校運営課題の解決に向けた組織的な取り組み	・教育課程の編成では、現状の課題の整理と解決方法を見出すための情報収集等、主任等の意見を取入れ話し合いを進めることができた。各学部で再編成した教育課程を実行しながら、一人一人の教員が課題意識を持ち、更に話し合いを深めていくことが課題である。
7 年度	・多様性を認め合う高い人権意識をもった児童生徒と教員	・人権チェックシートを活用し、学期ごとに自己評価と、各学年と類型による話し合いを行った。外部講師を招いての全体研修では、学校や家庭における人権について知ったり、考えたりすることができた。来年度は話し合いの中で、児童生徒が人権を意識するための題材や活動についても取り上げていく。
	・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・課題解決プロジェクトの取組を踏まえて教科部会を実施し、授業実践につながる校内体制の充実を図った。教科部会では、授業づくりに活用できる「教科部会シート」を作成、共有することで、教科指導に対する共通理解を深めた。さらに、Ⅱ・Ⅲ類型の指導内容表や、知的代替教育課程における各教科の評価規準表を作成し、指導内容や評価の視点を明確にすることができた。
	・地域ボランティアや地域資源を活用した活動の充実	・地域ボランティアの登録は20人、活用は19回となり、学級活動、音楽、書写、英語の授業に来ていただいた。今後は、各教科の年間指導計画に位置付けられるような情報提供を行うとともに、学部と連携しながら活用例の紹介を充実させる。地域資源の活用については、近隣店舗の校外学習等の取り組みを集約、情報提供し、地域とのつながりが更に深まるよう推進していく。
	・指導の充実に向けた働き方改革の推進	・グーグルサービスの効果的な活用の仕方或使用上の注意点を学校掲示板等で周知することにより、グーグルチャットやグーグルフォーム等の安全な使用が定着してきている。今後は、生成AIの適切な活用等、引き続き効率的に業務遂行できるよう更に工夫して取り組んでいく。

5 教職員について

(1) 異動状況 (単位：人)

区分	職名	本 務 職 員											臨時的任用職員・会計年度任用職員								合 計		
		教 育 職 員						行 政 職 員					教 諭（任）	教 諭（臨）	任期付短時間勤務教職員	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	臨時等計				
		校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養護教諭	栄養教諭	小 計	事務長	主 査	主 任	主 事								小 計		本務計	
転出者			1	1	16			18					0	18		1						1	19
退職者					7			7					0	7		2	2	1	1	1		7	14
転入者					13			13					0	13	2							2	15
新任者			1	1	5			7					0	7		2	3	1	2	1		9	16
役職定年								0					0	0								0	0
差引増減		0	0	0	△ 5	0	0	△ 5	0	0	0	0	0	△ 5	2	△ 1	1	0	1	0	3	△ 2	

(2) 現員数 (令和8年4月1日現在)

ア 職員の配置状況 (単位：人)

本 務 職 員														臨時的任用職員・会計年度任用職員							合 計
職名	教 育 職 員						行 政 職 員				本務計	教諭（任）	教諭（臨）	任期付短時間勤務教職員	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	臨時等計			
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任									主事	小計	
職員数	1	1	1	90	2	1	96	1	3	0	0	4	100	5	7	3	14	9	1	39	139

イ 職員の年齢 (令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	17	
30歳以上40歳未満	35	
40歳以上50歳未満	19	
50歳以上56歳未満	18	
56歳以上61歳未満	6	定年前再任用短時間勤務職員1人
61歳以上	5	再任用職員5人
計	100	平均年齢 37.9歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

<実施>

(ア) 健康診断における健康管理

- a 再検・精密検査者に対して早期受診の勧めを心掛けた。(全員受診)
- b 健康管理医による指導に基づき、早期治療及び経過観察等の措置を促した。

(イ) 日常の健康管理

- a 教職員の精神衛生に配慮し、「職員リフレッシュ活動」を年2回実施した。
- b 第2水曜日を定時退勤日とし、疲労の蓄積防止を図った。

<計画>

(7) 健康診断における健康管理

- a 再検・精密検査者に対して、早期受診の勧めを心掛ける。
- b 健康管理医による指導に基づき、早期治療及び経過観察等の措置を促す。

(イ) 日常の健康管理

- a 教職員の心身の健康に配慮し、常時健康相談や受診指導を実施する。
- b 教職員の身体的健康や精神衛生に配慮し、健康づくり支援を実施する。
- c 健康管理医による健康指導は、健康管理対策を中心としたものを4回以上実施する。
- d 腰痛予防対策としてストレッチや2人で介護することと呼びかける。
- e 第2水曜日の定時退勤を呼びかけ疲労の蓄積を防止する。
- f 出張カウンセリングやカウンセリング通信の紹介を行う。

イ 健康管理状況

(7) 令和7年度受診状況

区 分	内 容
受診状況	受 診 者 数 104人
	職 員 数 105人
受診率	99%
県平均受診率	100%

a 未受診の理由
検診日以前に退職

(イ) 令和8年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B2		要経過観察	0 人
C1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C2		要経過観察	0 人
D1	平常の勤務でよい。	要 治 療	12 人
D2		要経過観察	12 人
D3		医療不要	71 人
区分者計			95 人
未区分者数			5 人
合 計			100 人

a 管理区分A～C2該当者
に対する措置状況

b 未区分の理由
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(4) 教職員の研修について

年度	目 的	研修内容	成果及び課題
6 年 度	ア 「主体的・対話 的で深い学び」 をめざした授業 づくり	・分析的な実態把握から、一人一人の課題や学び方に応じた授業づくりを行う。 ・教科等の視点による学習評価、指導の評価に基づく授業改善に取り組むS-PDCAサイクルを確立する。	・ラーニングマップやSスケールの活用で、国語・算数(数学)の実態を整理・分析し直すことへつながった。 ・自立活動指導計画を用い、児童生徒個々の中心課題抽出を分析的に行うことで授業改善へとつながり、児童生徒の「できた」「分かった」を積み重ねた確かな学びへとつながった。
	イ 教員の専門性向上	・年度当初、新任・初任者向けに自立活動オリエンテーションや摂食基礎研修の実施する。 ・OJTやOJLの活用により、若手教員の基礎力向上や中堅教員の指導力向上を図る。 ・外部専門家(PT、OT、摂食)による訪問指導を実施する。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・各学部会、学習グループ会、研修会等で、指導ハンドブックの活用を推進する。	・肢体不自由特別支援学校で必要な知識や技能を伝達した。 ・学年主任や分掌課長を中心としたOJL(教師間の対等な学び合い)の取組や若手教員と中堅教員をグルーピングしたOJTの取り組みにより、教職員の孤立を防ぎ、互いに支え合う風土の中で、個々の専門性向上へとつながった。 ・外部講師研修では、児童生徒の個々の実態に合わせた指導方法や技術を学び、実際の指導に生かすことができた。 ・公開授業研究会で各類型ごとに外部講師を招聘した。単元構成や授業展開、支援方法等について助言を受け授業改善につなげることができた。 ・指導ハンドブックは、職員研修や自立活動オリエンテーションなど様々な場で活用することができた。
	ウ 初任者研修、2 年次研修、3年 次研修、6年次 研修、中堅教諭 等資質向上研修 の推進	・初任者研修では、指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。 ・各経験段階に応じ、自己で課題を設定し、課題に沿った研修を行い、理論や技術、子どもの見方、学校運営への参画等の資質を高める。	・指導教員を中心に各教科担当、管理職、分掌課長等からの講話や演習を設け計画的に実施している。 ・各経験段階に沿って企画された研修を実施している。また、管理職や部主事と面談を行って自己課題を確認し合う等、必要に応じ、相談、指導を行っている。

年度	目 的	研修内容	成果及び課題
7 年 度	ア 「主体的・対話 的で深い学び」 をめざした授業 づくり	・自立活動と強化の双方の視点から分析的な実態把握を行い、一人一人の学び方に応じた授業づくりを行う。 ・教科等の視点による学習評価、指導の評価に基づく授業改善に取り組むS-PDCAサイクルを確立する。	・ラーニングマップやSスケールの活用で把握した学習状況や発達の基盤を踏まえ、個々に応じた学び方をT T間で検討したことで、多くの授業で児童生徒が指導目標を達成することにつながった。 ・指導形態を問わず、「何を学ぶか」の明確化により、学習評価の充実へもつながった。一方で障害の程度が重度である児童生徒の各教科の指導では、個々の目標達成の姿の設定に難しさがあった。
	イ 教員の専門性向上	・年度当初、新任・初任者向けに自立活動オリエンテーションや摂食基礎研修の実施する。 ・O J TやO J Lの活用により、若手教員の基礎力向上や中堅教員の指導力向上を図る。 ・外部専門家（PT、OT、摂食）による訪問指導を実施する。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・各学部会、学習グループ会、研修会等で、指導ハンドブックの活用を推進する。	・肢体不自由特別支援学校に必要な知識や技能を伝達した。 ・学年主任や分掌課長を中心としたO J L(教師間の対等な学び合い)の取組や若手教員と中堅教員をグルーピングしたO J Tの取り組みにより、教職員の孤立を防ぎ、互いに支え合う風土の中で、個々の専門性向上へとつながった。 ・外部講師研修では、児童生徒の個々の実態に合わせた指導方法や技術を学び、実際の指導に生かすことができた。 ・公開授業研究会で各類型ごとに外部講師を招聘した。単元構成や授業展開、支援方法等について助言を受け授業改善につなげることができた。 ・指導ハンドブックは、職員研修や自立活動オリエンテーションなど様々な場で活用することができた。
	ウ 初任者研修、2 年次研修、3年 次研修、6年次 研修、中堅教諭 等資質向上研修 の推進	・初任者研修では、指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。 ・各経験段階に応じ、自己で課題を設定し、課題に沿った研修を行い、理論や技術、子どもの見方、学校運営への参画等の資質を高める。	・指導教員を中心に各教科担当、管理職、分掌課長等からの講話や演習を設け計画的に実施している。 ・各経験段階に沿って企画された研修を実施している。また、管理職や部主事と面談を行って自己課題を確認し合う等、必要に応じ、相談、指導を行っている。

6 防災対策について

年度	重点目標	取組内容	主たる活動	成果と課題
6 年 度	ア 非常時に備えた実践的な訓練の実施	- 様々な状況を想定した避難訓練の実施 - 緊急時下校訓練の改善と実施 - 不審者への対応や児童生徒の避難誘導手順の確認 - COCOO開封確認訓練 伝言ダイヤル171訓練を実施し、保護者、職員の非常時の連絡方法確認の徹底	- 避難訓練 年2回 - 簡易避難訓練 年4回 - 緊急下校訓練 年1回 - 不審者対応訓練 年1回 - COCOO開封確認訓練 「171」訓練 年1回	- 災害時の具体的な場面に合わせて避難訓練を行うことで、実際的な避難方法や基本的な対処方法について学ぶことができた。今後も対応の基本を確実に身に付ける。 - 教員の役割を理解して取り組むことができ、ケースに合わせた臨機応変な対応もできつつある。今後も継続した取り組みを行う。 - 不審者対応訓練を実施し、具体的な対応方法や留意点について整理できた。来年度は警察署と連携し、より専門的な知識を得られるように取り組んでいく。 - COCOO開封訓練、171訓練を実施した。171訓練では、教職員100%、保護者98.5%が実施でき、災害時の安否確認方法を確認することにつながった。
	イ 非常時における対応の立案・検証・備品の点検をする。	- 緊急時の職員参集体制の立案・確認 - 引き渡し訓練についての研修 - 危機管理マニュアルの見直し - 児童生徒個人用避難用品の検討及び定期的な入れ替え - 学校用防災備蓄用品の点検・補充	- 防災会議 年1回以上 - 年1回以上 - 年1回以上 - 年2回 - 年1回以上	- より実際的な計画書になるよう年度当初に作成と説明を行った。 - 訓練前に災害時に児童生徒を引き渡す際の流れを確認し、訓練後は反省を行った。毎年繰り返し研修を行うことで、教職員の見通しを持った動きへとつながっている。 - 南海トラフ臨時情報発令の経験から、校内基準の見直しを行った。 - 非常食体験等を通じて災害時に必要な物品について調整できた。引き続き保護者と連携して必要物品の確認を行う。 - 保護者に防災備蓄用品(特に医療的ケアで必要な物品)のアンケートを行い、ポータブル電源等を購入した。また、南海トラフ臨時情報発令後に、防災備蓄品の確認を行った。
	ウ 安全な教育環境の整備をする。	- 月例施設点検の実施と迅速な補修対応 - 危険箇所、予想される危険な状況について外部の助言を受ける - 教室等の校内整備、点検等、安全な環境づくり	- 施設維持管理点検 年1回 - 年1回以上 - 職員作業 年3回	- 月1回の点検を実施した。校内の危険箇所や不具合等について複数課で確認、即改善し、安全な教育環境維持に努めた。 - 年2回の地域防災連携連絡会に参加し、自主防災隊、市職員との防災連携を確認することができた。地域課題について連携した対応を行っていく。 - P T Aと協力しながら校内外の清掃、花壇作りを行った。
	エ 避難生活を含めた防災学習の実施	防災を含む安全に関する教育のイメージを基に全体のイメージを踏まえ、各学部で系統的に取り組む。	各学部で実施	各学部の児童生徒の実態に合わせて、非常食体験を含めた防災学習や浜松市防災センターへの校外学習等を行った。今後も継続して取り組む。

年度	重点目標	取組内容	主たる活動	成果と課題
7 年 度	ア 非常時に備えた実践的な訓練の実施	- 様々な状況を想定した避難訓練の実施 - 緊急時下校訓練の改善と実施 - 不審者への対応や児童生徒の避難誘導手順の確認 - COC00開封確認訓練 伝言ダイヤル171訓練を実施し、保護者、職員の非常時の連絡方法確認の徹底	- 避難訓練 年2回(火災) - 簡易避難訓練 年4回(地震) - 緊急下校訓練 年1回 - 不審者対応訓練 年1回 - COC00開封確認訓練 「171」訓練 年1回	- 行方不明者がでた場合や人員点呼を行う教員が不在のときなど、様々な状況を想定した訓練を行ったことで、教員間の役割分担や連携の重要性を再確認できた。 - 南海トラフ地震臨時情報(調査中)という具体的な想定に対して、マニュアルに沿った対応の確認ができた。 - 警察と連携しながら不審者対応訓練を実施したことにより、実際の不審者侵入時の動きや判断について専門的な助言を受けながら訓練を行うことができ、実践的な対応力の向上につながった。 - COC00開封訓練、171訓練を実施し、災害時の安否確認方法を確認することができた。
	イ 非常時における対応の立案・検証・備品の点検をする。	- 緊急時の職員参集体制の立案・確認 - 危機管理マニュアルの見直し - 児童生徒個人用避難用品の検討及び定期的な入れ替え - 学校用防災備蓄用品の点検・補充 - 福祉避難所マニュアルの作成	- 防災会議 年1回以上 - 年1回以上 - 年2回 - 年1回以上 - 年1回	- 年度当初、職員参集先名簿を作成。その中から応急対策要員を決定することができた。 - 南海トラフ臨時情報発令の経験から、校内基準の見直しを行った。 - 非常食体験や年間2回の入れ替え時期を設定したことにより、災害時に必要な物品について調整できた。引き続き保護者と連携して必要物品の確認を行う。 - 各班に分かれて防災用品の点検を行った。また、ポータブル電源については、常に充電が100%になるよう定期的に確認した。 7年度末に完成したため、来年度は各班に分かれて確認や見直し等を行っていく。
	ウ 安全な教育環境の整備をする。	- 月例施設点検の実施と迅速な補修対応 - 危険箇所、予想される危険な状況について外部の助言を受ける	- 施設維持管理点検 年1回 - 年1回以上	- 月1回の点検を実施した。校内の危険箇所や不具合等について複数課で確認、即改善し、安全な教育環境維持に努めた。 - 年2回の地域防災連携連絡会に参加し、自主防災隊、市職員との防災連携を確認することができた。地域課題について連携した対応を行っていく。
	エ 避難生活を含めた防災学習の実施	防災を含む安全に関する教育のイメージを基に全体のイメージを踏まえ、各学部で系統的に取り組む。	各学部で実施	各学部の児童生徒の実態に合わせて、非常食体験を含めた防災学習を行った。高等部では、西部地域局から講師を招き、学習を行ったことにより自分の生活を見直す機会となった。

7 学校開放について

静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱及び静岡県立西部特別支援学校の施設等の開放に関する細則に基づき、障害者団体の活動に学校の施設を開放した。

令和7年度から体育館の貸し出しを再開し、令和6年度より利用日数、利用者数も増加した。

施設名	利用内容	6 年度			7 年度			備考
		利用日数	利用者数	利用者負担金 (電気料)	利用日数	利用者数	利用者負担金 (電気料)	
機能訓練室	親子学習会 (ラッコの会)	12 日	114 人	2,066	12 日	172 人	25,033	
音楽室	演奏・発表の練習 (バンドサークル)	13 日	70 人		18 日	103 人		
体育館	フットサルの練習 (F.C RED FALCON)	日	人		23 日	510 人		
体育館	フロアバレーの練習 (浜松EELS)	日	人		2 日	35 人		
体育館	障害者きょうだい児交流会 (ミントモ)	日	人		1 日	58 人		
計		25 日	184 人		56 日	878 人		

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
学校教育に関すること	教育基本法（第 1 条、第 2 条） 学校教育法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 72 条、第 73 条、 第 74 条、第 76 条、第 77 条、第 82 条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第 5 条） 学校給食法（第 4 条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第 137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第 33 条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第 21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 15 条、第 27 条） 学校給食法（第 9 条、第 11 条、第 12 条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第 3 条、第 4 条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第 1 条～第 4 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護及準要保護児 童生徒援助費補助金交付要綱

学校施設の概要

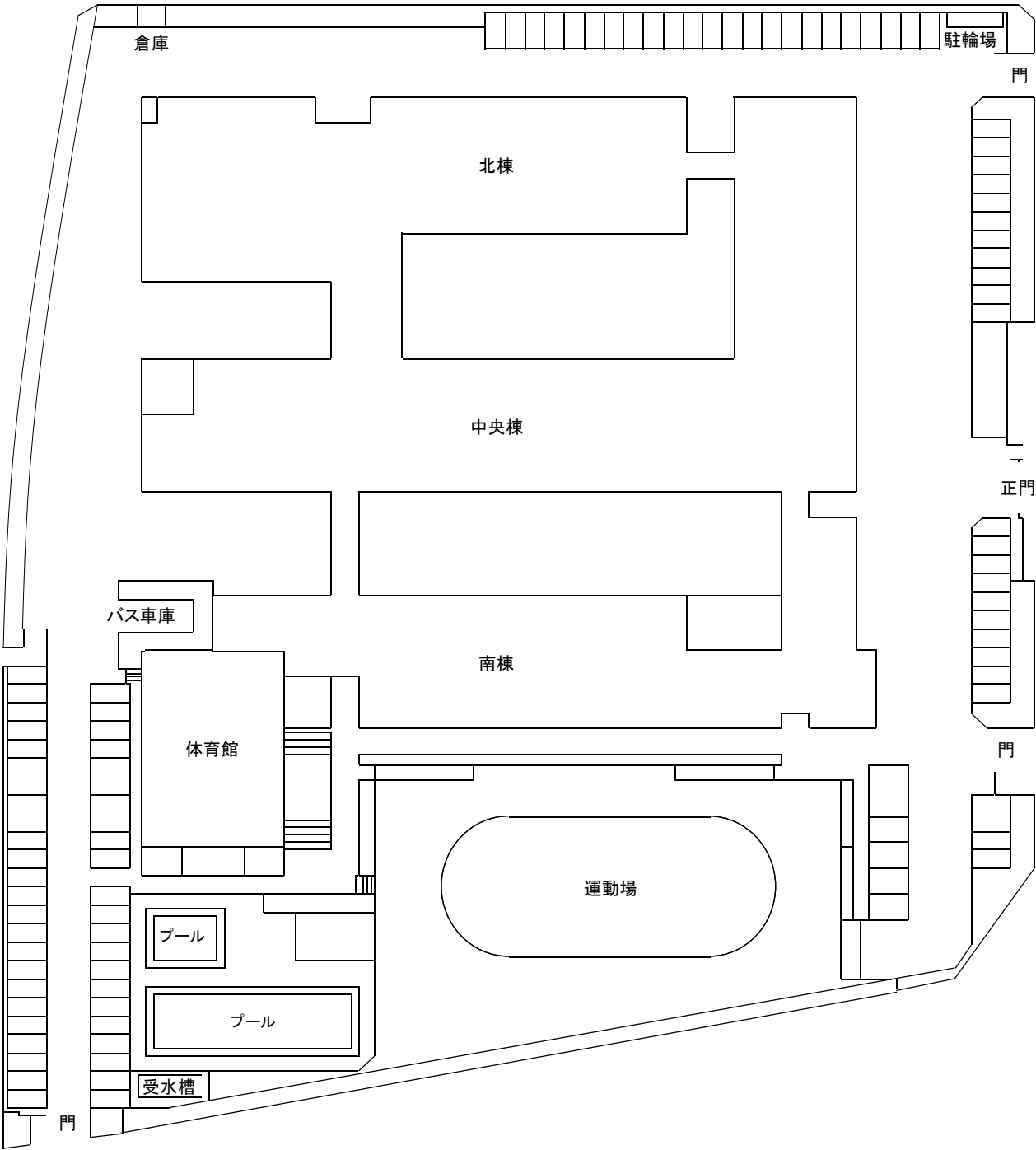
1 面積及び所有区分

(令和7年2月28日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		18,298.99	18,298.99					
内 訳	校 舎 敷 地	16,490.23	16,490.23					
	運動場敷地	1,765.01	1,765.01					
	そ の 他 の 敷 地	43.75	43.75					
校 舎		建5,834.34 延9,054.69	建5,834.34 延9,054.69					
体 育 館		建 679.48 延 646.28	建 679.48 延 646.28					
その他の建物		建 246.12 延 246.12	建 246.12 延 246.12					
プ ー ル		2個	2個					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	18,298.99㎡	9,054.69㎡	1,765.01㎡
県平均	19,266.88㎡	6,361.36㎡	5,302.07㎡

在 籍 生 徒 調

(令和8年3月31日現在)

学年	学 部		小 学 部				中 学 部				高 等 部				合 計			
	区分		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者			10	4	14		7	2	9	18	10	3	13		27	9	36
	増 加 減 少																	
	現 在			10	4	14		7	2	9		10	3	13		27	9	36
2年	入 学 者			4	4	8		7	4	11	18	7	10	17		18	18	36
	増 加 減 少											1		1		1		1
	2年時当初				1	1						1	2	3		1	3	4
	増 加 減 少			4	3	7		7	4	11		7	8	15		18	15	33
	増 加 減 少				1	1											1	1
	現 在			4	4	8		7	4	11		7	8	15		18	16	34
3年	入 学 者			7	5	12		4	2	6	18	6	2	8		17	9	26
	増 加 減 少							1		1						1		1
	2年時当初				1	1						1		1		1	1	2
	増 加 減 少			7	4	11		5	2	7		5	2	7		17	8	25
	増 加 減 少																1	1
	3年時当初			7	3	10		5	2	7		5	2	7		17	7	24
	増 加 減 少																	
	現 在			7	3	10		5	2	7		5	2	7		17	7	24
4年	入 学 者			3	3	6										3	3	6
	増 加 減 少																	
	2年時当初			3	3	6										3	3	6
	増 加 減 少																1	1
	3年時当初			3	2	5										3	2	5
	増 加 減 少				1	1											1	1
	4年時当初			3	2	5										3	2	5
	増 加 減 少																	
	現 在			3	2	5										3	2	5
5年	入 学 者			10	7	17										10	7	17
	増 加 減 少																	
	2年時当初			10	7	17										10	7	17
	増 加 減 少																1	1
	3年時当初			10	6	16										10	6	16
	増 加 減 少																	
	4年時当初			10	6	16										10	6	16
	増 加 減 少																	
	5年時当初			10	6	16										10	6	16
	増 加 減 少			1		1										1		1
	現 在			9	6	15										9	6	15
6年	入 学 者			4	10	14										4	10	14
	増 加 減 少																	
	2年時当初			4	10	14										4	10	14
	増 加 減 少			1		1										1		1
	3年時当初			3	10	13										3	10	13
	増 加 減 少			1		1										1		1
	4年時当初			4	8	12										4	8	12
	増 加 減 少				1	1											1	1
	5年時当初			4	8	12										4	8	12
	増 加 減 少				1	1											1	1
	6年時当初			4	7	11										4	7	11
	増 加 減 少																	
	現 在			4	7	11										4	7	11
合 計				37	26	63		19	8	27		22	13	35		78	47	125

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
学 科 別		高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）
生 徒 定 員 (A)		18	18	18	18	18
志願者数	男	3	9	6	6	10
	女	7	7	3	8	3
	計 (B)	10	16	9	14	13
受検者数	男	3	9	6	6	10
	女	7	7	3	8	3
	計 (C)	10	16	9	14	13
合格者数	男	3	9	6	6	10
	女	7	7	3	8	3
	計 (D)	10	16	9	14	13
志願倍率 (B)/ (A)		0. 56	0. 89	0. 50	0. 78	0. 72
受検倍率 (C)/ (A)		0. 56	0. 89	0. 50	0. 78	0. 72
入学者数	男	3	9	6	6	10
	女	7	7	2	8	3
	計 (E)	10	16	8	14	13
充足率 (E)/ (A)		0. 56	0. 89	0. 44	0. 78	0. 72

卒 業 生 の 動 向 調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		5			5
その他高等学校等					
大学等	大学（学部）				
	短期大学（本科）				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校（一般課程）・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上 記 以 外 ※		2	7		9
不詳・死亡					
計（卒業者総数）		7	7		14

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設		1	7		8
（うち就労系支援事業利用者）			(2)		(2)
医療機関					
計		1	7		8

生徒の状況

1 生徒の居住地及び通学方法

(1) 居住地

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

市町名	浜松市	湖西市	磐田市	袋井市	掛川市	菊川市	その他	合 計
生徒数	122	1	2	0	0	0	0	125
構成比%	97.6	0.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(2) 通学方法

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

区 分	スクールバス	自動車	交通機関	訪問教育	合 計
生徒数	26	76	0	23	125
構成比%	20.8	60.8	0.0	18.4	100.0 %

(3) 自転車通学に係るルールや要件

ヘルメット所持要件	無	ヘルメット着用要件	無
-----------	---	-----------	---

(4) ヘルメット所持、着用率

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

入学年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計
自転車通学者数	0	0	0	0	0
ヘルメット所持者数	0	0	0	0	0

着用率・着用状況	0.0%
----------	------

(5) 訪問教育の状況

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

訪問教員等			市町	浜松市	掛川市	袋井市	磐田市	その他	計
小・中学部	教諭	7	小学部	9	0	0	0	0	9
	講師	0	中学部	9	0	0	0	0	9
高等部	教諭	2	高等部	5	0	0	0	0	5
	講師	0							
計		9	計	23	0	0	0	0	23

2 部(クラブ)の加入状況

中学部

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	3	0		3
男子	1年	0	7	7
	2年	0	7	7
	3年	0	5	5
	計(A)	0	19	19
	構成比%	0.0	100.0	100.0
女子	1年	0	2	2
	2年	0	4	4
	3年	0	2	2
	計(B)	0	8	8
	構成比%	0.0	100.0	100.0
合計	(A+B)	0	27	27
	構成比%	0.0	100.0	100.0

高等部

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	3	0		3
男子	1年	1	9	10
	2年	1	6	7
	3年	1	4	5
	計(A)	3	19	22
	構成比%	13.6	86.4	100.0
女子	1年	1	2	3
	2年	2	6	8
	3年	0	2	2
	計(B)	3	10	13
	構成比%	23.1	76.9	100.0
合計	(A+B)	6	29	35
	構成比%	17.1	82.9	100.0

3 障害別児童生徒数

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	0	0	0	1	0	0	1	1
	重複障害	14	8	10	4	15	11	62	24
	肢体重複								
	合 計	14	8	10	5	15	11	63	25
中学部	単一障害	1	0	1				2	2
	重複障害	8	11	6				25	9
	肢体重複								
	合 計	9	11	7				27	11
高等部	単一障害	1	2	0				3	2
	重複障害	12	13	7				32	13
	肢体重複								
	合 計	13	15	7				35	15

4 起因疾患別児童生徒数

(令和8年3月31日現在)(単位:人)

区 分	脳性まひ	水頭症	その他の 脳性疾患	二 分 脊 椎	脊 髄 損 傷	進行性筋 ジストロ フィ	その他の 筋疾患	先天性 形成不全	その他	合 計
小学部	12	3	15	0	0	2	0	2	20	54
中学部	5	1	2	0	0	1	0	0	9	18
高等部	9	0	3	2	0	6	0	1	9	30
訪 問	6	0	11	0	0	0	1	0	5	23
計	32	4	31	2	0	9	1	3	43	125

特別支援学校における生産物売払調

令和 7 年度

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

	主な生産品目			
令和 7 年度	<手芸品・工作物> ポチ袋・レターセット、ノート、メモ帳、ポチ袋、クリアファイル コースター、ハンドタオル（大・小）、サシェ			
	① 売払金額	65,100 円	② 前年度との差額	700 円
令和 6 年度	<手芸品・工作物> バスボム、A 5 ノート、ポチ袋、クリアファイル、エコバック、 サシェ、名刺入れ、コースター			
	① 売払金額	64,400 円	② 前年度との差額	△9,650 円
令和 5 年度	<手芸品・工作物> ティッシュカバー、カレンダー、メモ帳（小・大）、ポチ袋、 コインケース、ペンケース、キーホルダー			
	① 売払金額	74,050 円	② 前年度との差額	550 円

* 過去 3 年分を記載すること。

預 金 調

(令和8年3月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
浜松磐田信用 金庫 三方原支店	無利息型 普通預金	2144630	静岡県立西部特別支援学校 資金前渡者 本杉 和美	20,000	交際費・給与等
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0246631	(自振口)静岡県立西部特別支援学校 資金前渡者 本杉 和美	0	公共料金等引落
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0580707	静岡県立西部特別支援学校 奨励費代理受領者 本杉 和美	0	特別支援教育就学 奨励費
残 高 合 計				20,000	

郵 券 等 受 払 調

(令和6年度)
(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和5年度						令和6年度								摘 要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	
郵券	16 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	7	112	7	112	0	0	文書等郵送用
	20 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	12	240	10	200	2	40	
	26 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	5	130	5	130	0	0	
	84 円券	9	756	117	9,828	93	7,812	33	2,772	40	3,360	73	6,132	0	0	
	94 円券	9	846	15	1,410	16	1,504	8	752	0	0	8	752	0	0	
	110 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	111	12,210	37	4,070	74	8,140	
	120 円券	10	1,200	5	600	3	360	12	1,440	0	0	12	1,440	0	0	
	140 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1,400	0	0	10	1,400	
	180 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1,800	0	0	10	1,800	
300 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	10	3,000	0	0	10	3,000		
計		2,802	11,838		9,676		4,964		22,252		12,836		14,380			

郵 券 等 受 払 調

(令和8年3月31日現在)
(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和 6 年度						令和 7 年度								摘 要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	
郵 券	16 円 券	0	0	7	112	7	112	0	0	0	0	0	0	0	0	文書等郵送用
	20 円 券	0	0	12	240	10	200	2	40	0	0	0	0	2	40	
	26 円 券	0	0	5	130	5	130	0	0	0	0	0	0	0	0	
	84 円 券	33	2,772	40	3,360	73	6,132	0	0	0	0	0	0	0	0	
	94 円 券	8	752	0	0	8	752	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110 円 券	0	0	111	12,210	37	4,070	74	8,140	35	3,850	84	9,240	25	2,750	
	120 円 券	12	1,440	0	0	12	1,440	0	0	0	0	0	0	0	0	
	140 円 券	0	0	10	1,400	0	0	10	1,400	0	0	1	140	9	1,260	
	180 円 券	0	0	10	1,800	0	0	10	1,800	0	0	0	0	10	1,800	
	300 円 券	0	0	10	3,000	0	0	10	3,000	0	0	0	0	10	3,000	
	レターバックライト (430円)	0	0	0	0	0	0	0	0	10	4,300	3	1,290	7	3,010	
計			4,964		22,252		12,836		14,380		8,150		10,670		11,860	

材 料 品 受 払 調

(令和6年度)

区分 品名	5 年 度						6 年 度								摘 要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	
布	枚 0	円 0	枚 2	円 5,368	枚 2	円 5,368	枚 0	円 0	枚 38	円 35,189	枚 38	円 35,189	枚 0	円 0	
紙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革	0	0	2	38,300	2	38,300	0	0	0	0	0	0	0	0	
木材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	4	43,668	4	43,668	0	0	38	35,189	38	35,189	0	0	

材 料 品 受 払 調

(令和7年度)

(令和8年3月31日現在)

区分 品名	6 年 度						7 年 度								摘 要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	
布	枚 0	円 0	枚 38	円 35,189	枚 38	円 35,189	枚 0	円 0	枚 15	円 21,054	枚 15	円 21,054	枚 0	円 0	
紙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	38	35,189	38	35,189	0	0	15	21,054	15	21,054	0	0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	16,710,985	16,356,265	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	11,608,850	11,828,850	
計					28,319,835	28,185,115	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0	
計					0	0	0
(16) 公有財産購入費					0	0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		660,000	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,558,480	355,300	
計					1,558,480	1,015,300	0
(18) 負担金、補助金及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	71,500	100,000	
計					71,500	100,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0	
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和8年3月31日現在)

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
					うち、令和6年度からの繰越額分	
(12) 委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	12,437,100	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	10,798,425	0
計					23,235,525	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	627,000	0
計					627,000	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	433,510	0
計					433,510	0
(18) 負担金、補助金及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	98,600	
計					98,600	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) スクールバス運行管理業務	大新東(株)静岡営業所	円 36,736,284	円 33,264,000	円 0	円 33,264,000	一般	5. 4. 1 ～ 8. 3. 31	(累計金額) 6. 5. 31 924,000 6. 6. 28 924,000 6. 7. 31 924,000 6. 8. 30 924,000 6. 9. 30 924,000 6. 10. 31 924,000 6. 11. 29 924,000 6. 12. 26 924,000 7. 1. 31 924,000 7. 2. 28 924,000 7. 3. 31 924,000 7. 4. 30 924,000 小計 11,088,000	円 (110,88,000) 運行管理業務 スクールバス N:2台 業務日数 624日	R5長期	
2	学校給食業務	(有)双葉利修庵	38,602,971	35,164,800	0	35,164,800	一般	5. 8. 1 ～ 8. 7. 31	(累計金額) 6. 5. 31 976,800 6. 6. 28 976,800 6. 7. 31 976,800 6. 8. 30 976,800 6. 9. 30 976,800 6. 10. 31 976,800 6. 11. 29 976,800 6. 12. 26 976,800 7. 1. 31 976,800 7. 2. 28 976,800 7. 3. 31 976,800 7. 4. 30 976,800 小計 11,721,600	給食の調理及び主食・副食配膳業務 給食実施日数 581日	R5長期	
3	エレベーター保守点検業務	三菱電機ビルソリューションズ(株)中部支社静岡支店	1,570,140	1,570,140	0	1,570,140	随契	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	6. 5. 31 92,400 6. 6. 28 92,400 6. 7. 31 198,660 6. 8. 30 92,400 6. 9. 30 92,400 6. 10. 31 198,660 6. 11. 29 92,400 6. 12. 26 92,400 7. 1. 31 234,960 7. 2. 28 92,400 7. 3. 31 92,400 7. 4. 30 198,660 小計 1,570,140	エレベーターの保守管理業務 エレベーター N:2台 速隔点検12回 保守点検4回 定期点検1回	随契2号 (不適)	
4	医療的ケア児就学支援事業訪問看護業務	医療法人社団福在会磐田住宅医療クリニック	369,050	369,050	234,850	603,900	随契	6. 5. 28 ～ 7. 3. 31	6. 7. 31 100,100 6. 8. 30 67,100 6. 9. 30 33,000 6. 10. 31 134,200 6. 11. 29 100,100 小計 434,500	在校中の医療的ケア児就学支援事業	随契1号 (少額)	
5	医療的ケア児就学支援事業訪問看護業務	(福)聖隷福祉事業団訪問看護ステーション三方原	180,400	180,400	0	180,400	随契	6. 5. 28 ～ 7. 3. 31	6. 7. 31 89,650 6. 8. 30 67,100 小計 156,750	在校中の医療的ケア児就学支援事業	随契1号 (少額)	
6	医療的ケア児就学支援事業訪問看護業務	(福)聖隷福祉事業団	474,650	474,650	0	474,650	随契	6. 5. 28 ～ 7. 3. 31	6. 7. 31 67,100 6. 8. 30 95,150 6. 10. 31 111,650 6. 11. 29 145,200 小計 419,100	在校中の医療的ケア児就学支援事業	随契1号 (少額)	
7	医療的ケア児就学支援事業訪問看護業務	医療法人社団静岡健生会訪問看護ステーションあすなろ	530,330	530,330	0	530,330	随契	6. 5. 29 ～ 7. 3. 31	6. 7. 31 61,370 6. 8. 30 83,805 6. 10. 31 55,870 6. 11. 29 99,870 6. 12. 26 83,370 7. 1. 31 61,370 7. 2. 28 50,370 小計 496,025	在校中の医療的ケア児就学支援事業	随契1号 (少額)	
8	ガスヒートポンプ・エアコン保守点検業務	つばい工業(株)	951,500	951,500	0	951,500	随契	6. 6. 11 ～ 7. 3. 31	7. 4. 30	951,500	ガスヒートポンプ・エアコンの保守点検調整	随契1号 (少額)
9	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	(株)太平洋サービス	53,625	53,625	0	53,625	随契	6. 6. 28 ～ 6. 10. 31	6. 9. 3	53,625	産業廃棄物収集運搬及び処分業務(クリスタップ)	随契1号 (少額)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
10	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	合同会社 connect訪 問看護ス テーション はるはる	510,400	510,400	0	510,400	随契	6.8.29 ～ 7.3.31	6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.30 小計	84,150 84,150 84,150 56,100 84,150 56,100 56,100 504,900	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)
11	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	合同会社 connect訪 問看護ス テーション はるはる	686,400	686,400	0	686,400	随契	6.9.25 ～ 7.3.31	6.11.29 6.12.26 7.1.31 小計	223,300 223,300 189,750 636,350	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)
12	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	㈱環吉	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.10.15 ～ 7.2.28	7.2.28	99,000	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	随契1号 (少額)
13	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	㈱太平洋セ メント	53,625	53,625	0	53,625	随契	7.2.12 ～ 7.3.28	7.2.12	53,625	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (グリースタッフ)	随契1号 (少額)
	事務関係 計	13件								28,185,115		
	合 計	13件								28,185,115		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
参考 1	自家用電気 工作物保安 管理業務	遠鉄アシス ト㈱		円 4,755,960	円 294911	円 5,050,871		6.4.1 ～ 7.3.31			自家用電気工作 物点検5回 年次点検1回	浜松城北工 業高校
参考 2	浄化槽保守 点検業務	管理事業㈱		3,524,400		3,524,400		6.4.1 ～ 7.3.31			し尿浄化槽 N:1基 基準点検 4回 基準外点検 8回 薬物投入 12回	新居高校
参考 3	可燃物収集 運搬処分業 務	環境保全㈱		運搬料1回 715円 処分料1kg 13.2円	0	運搬料1回 715円 処分料1kg 13.2円		6.4.8 ～ 7.3.31			可燃ごみの 処理業務 開校日は毎日 8月は週1回	浜松大平台 高校 単価契約
参考 4	プール浄化 装置保守点 検業務	清化工業㈱		998,800	0	998,800		6.4.8 ～ 6.12.27			プール浄化 装置保守点 検	浜松東高校
参考 5	建築物環境 衛生管理業 務	㈱シービー エム		7,773,260	0	7,773,260		6.4.1 ～ 7.3.31			建築物環境 衛生管理	浜松西高校
参考 6	消防用設 備保守点 検業務	静岡県消防 設備保守点 検業協同組 合		18,810,000	-16,500	18,793,500		6.4.1 ～ 7.3.31			自動火災報 知設備、防 排煙設備、 屋内消火栓 設備、非常 用放送設 備、誘導灯 設備、消火 器、自家発 電設備 機器点検1回 総合点検1回	浜松湖北高 校
参考 7	建築基準法 第12条に基 づく定期点 検業務	㈱山口一級 建築士事務 所		2,200,000	0	2,200,000		6.11.22 ～ 7.3.24			建築基準法 第12条に基 づく点検	浜北西高校
参考 8	学校警備 業務	セコム㈱		10,164,000	0	10,164,000		1.10.1 ～ 6.9.30			機械警備業 務	浜松工業高 校 R1長期
参考 9	学校警備 業務	セコム㈱		14,256,000	0	14,256,000		6.10.1 ～ 11.9.30			機械警備業 務	浜松工業高 校 R6長期
	計	9 件										

委託料に関する調

(令和7年度)
(令和8年3月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) スクールバス 運行管理 業務	大新東(株)静 岡営業所	円 36,736,284	円 33,264,000	円 0	円 33,264,000	一般	5.4.1 ～ 8.3.31	(累計金額) 7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.12.25 7.12.25 8.1.30 8.2.27 8.3.31 小計	円 (22,176,000) 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 10,164,000	運行管理業務 スクールバス N:2台 業務日数 624日	R5長期
2	学校給食業 務	(有)双葉利修 庵	38,602,971	35,164,800	0	35,164,800	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	(累計金額) 7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27 8.3.31 小計	円 (19,536,000) 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 10,744,800	給食の調理及 び主食・副食 配膳業務 給食実施日数 581日	R5長期
3	エレベーター 保守点 検業務	三菱電機ビ ルソリューションズ (株)中部支社 静岡支店	1,610,400	1,610,400	0	1,610,400	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.26 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27 8.3.31 小計	円 92,400 92,400 207,900 92,400 92,400 207,900 92,400 92,400 247,500 92,400 92,400 1,402,500	エレベーターの保守 管理業務 エレベーター N:2台 遠隔点検12回 保守点検4回 定期点検1回	随契2号 (不適)
4	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	医療法人社 団静岡健生 会訪問看護 ステーションあす なろ	301,350	301,350	0	301,350	随契	7.5.1 ～ 8.3.31	7.6.30 7.3.31 小計	円 145,175 156,175 301,350	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)
5	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	合同会社 connect訪問 看護ステ ーションはるは る	347,600	347,600	0	347,600	随契	7.5.13 ～ 8.3.31	7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.10.31 小計	円 84,150 84,150 84,150 84,150 336,600	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)
6	ガスヒートポン プエアコン保守 点検業務	つばい工業 (株)	932,800	932,800	0	932,800	随契	7.6.16 ～ 8.3.31			ガスヒートポン プエアコンの保 守点検調整	随契1号 (少額)
7	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	(株)太洋サービ ス	53,625	53,625	0	53,625	随契	7.6.27 ～ 7.10.31	7.9.30	円 53,625	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ケリストラップ)	随契1号 (少額)
9	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	(福)聖隷福 祉事業団 聖隷厚生園 信生寮 訪 問看護ス テーション 細江	240,350	240,250	0	240,250	随契	7.9.24 ～ 8.3.31	7.11.28 8.3.31 小計	円 39,050 94,600 133,650	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
10	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	(株)環吉	99,000	99,000	0	99,000	随契	7.10.22 ～ 8.2.27	8.2.3	99,000	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	随契1号 (少額)
11	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	(株)太平洋セ メント	53,625	53,625	0	53,625	随契	8.2.19 ～ 8.3.31			産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (グ*リストラップ)	随契1号 (少額)
	事務関係 計	11件								23,235,525		
	合 計	11件								23,235,525		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
参考 1	自家用電気 工作物保安 管理業務	遠鉄アシス ト(株)		円 5,212,680	円 0	円 5,212,680		7.4.1 ～ 8.3.31			自家用電気工作 物月次点検5回 年次点検1回	浜松城北工 業高校
参考 2	浄化槽保守 点検業務	管理事業(有 限会社)		3,916,770	0	3,916,770		7.4.1 ～ 8.3.31			し尿浄化槽 N:1基 基準点検 4回 基準外点検 8回 薬物投入 12回	新居高校
参考 3	可燃物収集 運搬処分業 務	環境保全(株 有限会社)		運搬料1回 770円 処分料1kg 13.2円	0	運搬料1回 770円 処分料1kg 13.2円		7.4.7 ～ 8.3.31			可燃ごみの処理業務 開校日は毎日 8月は週1回	浜松大平台 高校 単価契約
参考 4	プール浄化 装置保守点 検業務	清化工業(株 有限会社)		995,500	-37,400	958,100		7.4.10 ～ 7.12.26			プール浄化 装置保守点 検	浜松東高校
参考 5	建築物環境 衛生管理業 務	(株)シービー エム		8,401,470	0	8,401,470		7.4.1 ～ 8.3.31			建築物環境 衛生管理	浜松西高校
参考 6	消防用設備 保守点検業 務	静岡県消防 設備保守点 検業協同組 合		19,250,000	118,800	19,368,800		7.4.1 ～ 8.3.31			自動火災報 知設備、防 排煙設備、 屋内消火栓 設備、非常 用放送設 備、誘導灯 設備、消火 器、自家発 電設備 機器点検1回 総合点検1回	浜松湖北高 校
参考 7	建築基準法 第12条に基 づく定期点 検業務	N.concept 建築計画 二級建築士 事務所		3,608,000	0	3,608,000		7.11.25 ～ 8.3.24			建築基準法 第12条に基 づく点検	浜北西高校
参考 8	学校警備 業務	セコム(株 有限会社)		10,164,000	0	10,164,000		元.10.1 ～ 6.9.30			機械警備業 務	浜松工業高 校 R1長期
参考 9	学校警備 業務	セコム(株 有限会社)		14,256,000	0	14,256,000		6.10.1 ～ 11.9.30			機械警備業 務	浜松工業高 校 R6長期
	計	9件										

負担金支出調

(令和 6 年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	浜松中央地区安全運転管理協会会費	浜松中央地区安全運転管理協会	浜松中央地区安全運転管理協会会則	安全運転管理者の充実強化、交通安全の実現に寄与	円 25,000	令和 6 年 6 月 10 日
2	第41回障害児摂食指導講習会参加費	特定非営利活動法人日本肢体不自由教育研究会理事長	第41回障害児摂食指導講習会開催案内	障害児の摂食指導に関する技術向上	31,000	令和 6 年 6 月 18 日
3	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会規約	肢体不自由教育の振興、管理運営に関する調査研究	8,000	令和 6 年 6 月 20 日
4	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会規約	肢体不自由教育の向上に寄与する調査研究	4,500	令和 6 年 6 月 27 日
5	第67回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会群馬大会参加費	第67回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会大会事務局	第67回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会大会要項	肢体不自由教育の諸問題への対応のための研究協議	3,000	令和 6 年 7 月 26 日
6	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会則	肢体不自由教育の振興を図るための調査研究	15,000	令和 6 年 8 月 7 日
7	第70回全国肢体不自由教育研究協議会熊本大会参加費	第70回全国肢体不自由教育研究協議会熊本大会実行委員会	第70回全国肢体不自由教育研究協議会熊本大会開催要項	肢体不自由教育の充実と発展のための研究協議	9,000	令和 6 年 9 月 6 日
8	安全運転管理者講習受講料	静岡県安全運転管理協会	道路交通法	安全運転管理者に対する安全運転管理の講習	4,500	令和 6 年 10 月 28 日
合 計		8 件			100,000	

負担金支出調

(令和 7 年度)
(令和 8 年 3 月 31 日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	浜松中央地区安全運転管理協会会費	浜松中央地区安全運転管理協会	浜松中央地区安全運転管理協会会則	安全運転管理者の充実強化、交通安全の実現に寄与	円 25,000	令和 7 年 5 月 15 日
2	第42回障害児摂食指導講習会参加費	特定非営利活動法人日本肢体不自由教育研究会	第42回障害児摂食指導講習会開催案内	障害児の摂食指導に関する技術向上	13,000	令和 7 年 5 月 29 日
3	中部地区肢体不自由教育研究大会長野大会参加費	第63回中部地区肢体不自由教育研究大会(長野大会)実行委員長	第63回中部地区肢体不自由教育研究大会(長野大会)実施要項	肢体不自由教育の諸問題への対応のための研究協議	6,000	令和 7 年 6 月 20 日
4	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会規約	肢体不自由教育の向上に寄与する調査研究	4,500	令和 7 年 6 月 25 日
5	第68回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会鳥取大会参加費	第68回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会大会事務局長	第68回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会大会開催要項	肢体不自由教育の諸問題への対応のための研究協議	3,000	令和 7 年 7 月 2 日
6	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会規約	肢体不自由教育の振興、管理運営に関する調査研究	8,000	令和 7 年 7 月 8 日
7	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会則	肢体不自由教育の振興を図るための調査研究	15,000	令和 7 年 7 月 14 日
8	全国訪問教育研究会第38回全国大会参加費	全国訪問教育研究会会長	第38回全国大会(埼玉)開催要項	訪問教育にかかる諸問題への協議・情報交換	5,000	令和 7 年 7 月 17 日
9	第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会参加費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会	第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会開催要項	肢体不自由教育の充実と発展のための研究協議	6,000	令和 7 年 9 月 10 日
10	安全運転管理者講習会受講料	静岡県安全運転管理協会	道路交通法第74条	安全運転管理者に対する安全運転管理の講習	5,100	令和 7 年 11 月 25 日
11	防火管理講習受講料	日本防火・防災協会	消防法第 8 条	防火管理者に対する防火管理業務の講習	8,000	令和 8 年 1 月 13 日
合 計		11件			98,600	

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変 更 増減額
1	教 育 管理費	令和 7 年度静岡県 立西部特別支援学 校教育相談室空調 機設置工事	浜松市中央区根洗 町地内	円 627,000	円 627,000	円 0
		合 計	1 件	627,000	627,000	0

「令和 6 年度該当なし」

事 調

(令和7年度)

(令和8年3月31日現在)

額	契約	受注者	着手	支出	工事概要	公有財産	摘要
計	締結方法		完成(予定) 年 月 日	済額		台帳	
円 627,000	随契	つばい工業(株)	R7.11.26 ～ R8. 2.19	円 627,000	壁掛型ルームエアコン 設置 1台	済	随契1号(少額) 令達年月日 令和7年11月4日 最終支払年月日 令和8年3月17日
627,000				627,000			

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘 要 数量又は面積
	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,323,881		千円 433		千円 96,921		千円 2,227,393	
土 地	m ² 18,298.99	237,487	m ²		m ²		m ² 18,298.99	237,487	
立木竹	本 79	1,312	本	433	本		本 79	1,745	本
建 物	m ² 6,759.94	1,842,373				71,854	m ² 6,759.94	1,770,519	
	9,947.09						9,947.09		
工作物	個 108	242,709	個		個	25,067	個 108	217,642	個
公有財産に 準ずるもの		268						268	
電話 加入権	件 5	268	件		件		件 5	268	件

公 有 財 産 調

(令和 7 年度)

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

区 分	令和 7 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令和 8 年 3 月 31 日 現 在		摘 要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,227,393		千円 627		千円 95,630		千円 2,132,390	
土 地	18,298.99 ^{m²}	237,487					18,298.99 ^{m²}	237,487	
立木竹	79 ^本	1,745					79 ^本	1,745	
建 物	6,759.94 ^{m²}	1,770,519				71,855	6,759.94 ^{m²}	1,698,664	
	9,947.09						9,947.09		
工作物	108 ^個	217,642	1 ^個	627		23,775	109 ^個	194,494	
公有財産に 準ずるもの		268						268	
電話 加入権	5 ^件	268					5 ^件	268	

借地借家等調

(令和8年3月31日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	河川敷	歩道	0.13m 0.09m ²	円	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
2	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	河川敷	歩道	0.13m 0.05m ²		無償	7.4.1 ～ 12.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
3	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	道路敷	歩道	1.87m 0.67m ²		無償	7.4.1 ～ 12.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
4	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	道路敷	歩道	1.76m 1.23m ²		無償	7.4.1 ～ 12.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
	計					3.89m 2.04m ²					

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和8年3月31日現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契 約 額 の 年 度 別 内 訳)			
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
長期継続 契 約	スクールバス 運行管理業務委託契約	スクールバス2台の運行管理業務 (契約日) 令和5年4月1日	33,264,000	11,088,000	11,088,000	11,088,000	
長期継続 契 約	学校給食業務委託契約	完全給食による主食・副食 の調理及び主食・副食配膳 業務 (契約日) 令和5年8月1日	35,164,800	7,814,400	11,721,600	11,721,600	3,907,200

行政財産貸付・使用許可調

(令和6年度)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 4本 支線 3本	1,500	円 10,500	2.4.1 ～ 7.3.31	中部電力パワークリッド(株) 浜北営業所 配電建設グループ 長	電力供給
2	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 5本 支線 4本	1,500	13,500	2.4.1 ～ 7.3.31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電気通信線 路設備維持
3	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	43.75㎡		18,200	6.4.1 ～ 7.3.31	遠州鉄道(株) 代表取締役	バス停留所
4	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	0.25㎡		100	6.4.1 ～ 7.3.31	湖東商工会会長	外灯
合計								42,300			

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年度)

(令和8年3月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 4本 支線 3本	1,500	円 10,500	7.4.1 ～ 12.3.31	中部電力パワークリッド(株) 浜北営業所 配電建設グループ 長	電力供給
2	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 5本 支線 4本	1,500	13,500	7.4.1 ～ 12.3.31	NTT西日本(株) 静岡支店長	電気通信線 路設備維持
3	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	43.75㎡		18,240	7.4.1 ～ 8.3.31	遠州鉄道(株) 代表取締役	バス停留所
4	土地	学校敷地	浜松市中央区根洗町597-1	学校用地	学校敷地	0.25㎡		100	7.4.1 ～ 8.3.31	湖東商工会会長	外灯
合計								42,340			

主 要 備 品 調

(令和8年3月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	調理器具	真空冷却機 ホテルパンラック仕様	毎日(年間240日) 調理に使用	平成29年 3月	2,374,380 ^円
2	01-13	加熱器具	コンビオープン ホテルパン 1 / 1	毎日(年間240日) 調理に使用	平成29年 3月	1,940,328
3	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 両面ガラス扉	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	1,828,980
4	10-99	その他の教育用器具	わいわい工場 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成20年 2月	1,669,500
5	02-01	パーソナルコンピュータ一式	県立学校 I C T 環境整備機器一式	週 3 回 (年間40週) 授業に使用	令和2年 1月	1,624,425
6	01-13	食品食器洗浄機	ドアタイプ自動食器洗浄機	毎日(年間240日) 食器洗浄に使用	平成29年 3月	1,557,684
7	01-04	その他の収納保管庫	収納保管庫 W5,440×D450×H2,500	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成29年 3月	1,542,240
8	10-99	その他の教育用器具	4人用シーソー 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成18年 3月	1,470,000
9	10-99	その他の教育用器具	2連ブランコ 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成19年 2月	1,176,000
10	01-13	食品食器洗浄機	電気式食器消毒保管機 5 段式	毎日(年間365日) 食器洗浄、保管に使用	平成29年 3月	1,165,320
11	01-13	冷蔵(凍)庫	冷凍冷蔵庫 2 室冷蔵、2 室冷凍	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	1,067,688
12	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ G5E	随時(年間40日) 学校行事に使用	昭和53年 12月	790,000
13	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵庫 603L	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	748,656
14	01-04	移動書庫	5列書庫 2030×1000×490cm	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成9年 8月	747,600
15	01-04	下駄箱	来客用下足入れ W2,890×D720×H1,600mm	毎日(年間365日) 来客、職員下足収納に使用	平成29年 3月	742,500
16	01-04	下駄箱	来客用下足入れ W2,890×D720×H1,600mm	毎日(年間365日) 来客、職員下足収納に使用	平成29年 3月	742,500
17	01-04	移動書庫	移動棚 N954AMZ210	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成14年 1月	732,900
18	01-04	書類収納庫	書類収納庫 ビジネスウォールNS	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成13年 3月	728,175
19	06-06	炉	電気式横扉陶芸窯 LK-6型	年間6回程度 授業に使用	平成29年 3月	718,200
20	01-13	ユニットキッチン	下処理用 3 層シンク W1800×D750×H850	毎日(年間240日) 食器の洗浄に使用	平成29年 3月	670,788